

第3学年 道徳学習指導案

い組 男子17名 女子17名 計34名

指導者 永田 佑

1 主 題 名 正しいことは思いきって

1-(3) 正しいと判断したことは、勇気をもって行う。

2 主題について

(1) 主題の位置とねらい

この期の子どもたちは、これまでに善悪について自分なりに考えて判断し、勇気をもって行動することの大切さに気付き、正しいと判断したことは勇気をもって行おうと努力してきている。しかし、恐怖心や自己中心的な考えなどから、正しいこととわかりつつもそのことをなかなか実行できなかったり、悪いことと知りつつも周りに流されたり、自分の弱さに負けたりしてしまうこともある。このようなことから、この期の子どもたちに、正しいと判断したことは勇気をもって行い、正しくないとは勇気をもってやめることが気持ちのよい生活につながることを理解させ、正しいと判断したことは、勇気をもって行おうとする態度を育てる必要がある。

そこで、本主題では、自分が正しくないとは判断したことを、誘惑に負けないで行動するだけでなく、正しいと判断したことは勇気をもって行わなければならないと指摘される場面で生じる心情や心情の変化を、自らの体験場面と関係付けて類推しながら追究する活動を通して、正しいと判断したことは、勇気をもって行うことの大切さを理解し、勇気を出して正しい行動をしようとする心情を育てることをねらいとしている。さらには、正しいと判断したことは、勇気をもって行おうとする生き方は、自分だけでなく他者や身近な集団の生活を明るく気持ちよく過ごせることに繋がることを実感し、これからの生活の中で生かしていこうとする意欲を高めていくこともねらいとしている。

このような学習を通して身に付けた見方・考え方・感じ方は、正しいと判断したことは、勇気をもって行おうとする生き方を深く追究していく学習へと発展していくことになる。

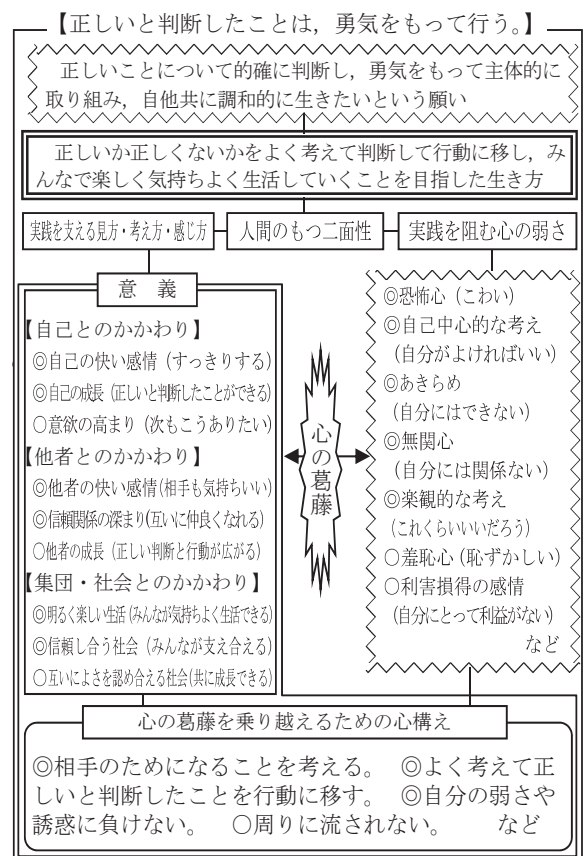
(2) 指導の基本的な立場

正しいと判断したことは、勇気をもって行おうとすることについて、人間のもつ二面性に着目して人間理解を深めるという立場から分析すると右の図のようになる。

正しいと判断したことは、勇気をもって行うことは、正しいかどうかをよく考えて判断し、正しいと判断したことは、誘惑や心の弱さに負けずに、行動に移していくことととらえることができる。

ここでは、正しいことについての的確に判断し、勇気をもって主体的に取り組み、自他共に調和的に生きたいという願いを基に、正しいか正しくないかをよく考えて判断して行動に移し、みんなで楽しく気持ちよく生活していくことを目指した生き方とし、その実践を支える見方・考え方・感じ方（意義や心構え）と実践を阻む心の弱さの両面から、人間理解を深めていくことになる。

具体的には、正しいと判断したことは、勇気をもって行うことで、自分の気持ちがすっきりしたり自己の成長に繋がったりすることや、相手との信頼関係も深まり、みんなが支え合って楽しく気持ちよく生



◎は重点的な学習内容

活できるようになることなどを理解させる必要がある。その一方で、勇気をもって行動しようと思いつきながらも、「こわい」といった恐怖心、「自分がよければいい」といった自己中心的な考えなどの心の弱さからなかなか実践できないことがあることにも気付かせるようにする。そして、それらの弱さと望ましい生き方との間に起こる心の葛藤を乗り越えていくためには、相手のためになることを考えることやよく考えて正しいと判断したことを行動に移すなどの心構えをもつことが大切であることも理解させる必要がある。

このような内容にかかわる生き方への共感を高めるために、本主題では読み物資料「あと、ひと言」(学研教育みらい)を取り上げることにした。この資料は次のような粗筋である。

一緒に遊んでいた友だちから塀の上を歩こうと誘われた主人公は、困りながらも小さな声で誘いを断る。その後、家へ帰ると、友だちが塀からすべり落ちて大けがをしたと母から聞き、さっきまで一緒に遊んでいたときのことを話す。すると、「えらかったけど、でも、少し足りなかった。」と母に言われ、主人公が母の言おうとしていることに気付き、考えているという内容である。

この資料を扱うに際し、話の内容の理解を深め、主人公の心情に十分に触れさせるために、録音CDや一枚絵を活用する。また、子どもたちの生活場面を振り返らせ、そこでの心情と主人公との心情を関係付けながら類推し、主人公の心情や心情の変化に自我関与させる。

具体的には、まず切実感のある自分の考えていきたい問題を追究していくために資料の一読から、主人公が友だちからの危険な遊びの誘いを断って家に帰ると、母から友だちが塀からすべり落ちて大けがをしたことを聞いた場面で、正しいと判断したことは、勇気をもって行うことにかかわることがなぜ大切な、どのようなよさがあるか(意義・心構え)を多面的に追究させる。その際、**自分の生活の経験における心情と関係付けて類推しながら、主人公の行った行動とその背景にある心情やその後の結果を、重点的に扱う意義・心構えと関係付けて追究できるような対話活動を行う。**さらには、自分の考えていきたい問題についてまとめていく中で、学習を通して変わったり確かになったりした自分の考えやその理由、それにつながる生活場面を意識させることで、よりよい実践への意欲や期待感を高めさせる。

このような過程を重視する学習を通して得られる能力や態度は、正しいと判断したことは、勇気をもって行い、正しくないとは判断したことは、勇気をもってやめ、みんなで明るく気持ちよく生活していくことを目指す生き方をしていこうとする喜びや楽しさとなり、そのことが豊かな自分の生き方を追究し続けることにつながると思われる。

(3) 子どもの実態

本学級の子どもたちの正しいと判断したことは、勇気をもって行おうとすることにかかわる経験や、実践を阻む心の弱さ、実践を支える見方・考え方・感じ方(意義・心構え)等についての認識は以下のとおりである。

[表1] 勇気をもって行った経験(総反応数99)とその時の感情(総反応数80)

経験	反応数(人)	その時の感情	反応数(人)
自分からあいさつができた	31	相手のことを考える	24
苦手なことに挑戦できた	25	がんばろうという気持ち	19
席を譲ることができた	13	自分を信じる	17
よくないことをよくないと言えた(注意できた)	13	自分にも返ってくるかもしれない	12
自分から声をかけられた	12	恥ずかしさやめんどろな気持ちに負けない	6
進んで発表ができた	5	あきらめない気持ち	2

[表2] 勇気をもって行えなかった心情(総反応数51)

心の弱さ	反応数(人)	心の弱さ	反応数(人)
恐怖心(怖い)	15	楽観的な考え(他の人がするだろう)	7
自信のなさ(自分にはできない)	13	無関心(自分には関係ない)	6
羞恥心(恥ずかしい)	10		

[表3] 実践を支える見方・考え方・感じ方(意義)についての認識

総反応数87

見方・考え方・感じ方		反応数(人)	見方・考え方・感じ方		反応数(人)	見方・考え方・感じ方		反応数(人)
対自己	うれしい、すっきりする	21	対他者	うれしい、すっきりする	9	対集団・社会	気持ちよく生活できる	14
	自信をもつことができる	8		自分もやろうと思う	6		安心して過ごせる	5
	感謝される	4		安心する、助かる	6		自分もやろうと思う	5
	次もやろうと思う	3		友だちになれる	6			

[表4] 実践を支える見方・考え方・感じ方（心構え）についての認識

総反応数 33

見方・考え方・感じ方	反応数 (人)	見方・考え方・感じ方	反応数 (人)
がんばろうという気持ちをもつ	13	自分の弱い心に負けない	6
自分を信じる	10	相手のことを考える	4

[表1]の「相手のことを考える」「がんばろうという気持ち」「自分を信じる」等の感情が多いことから、相手の気持ちや立場を考えたり、自分のことを奮い立たせたりして、勇気をもって行動した経験が多いことが考えられる。その反面、[表2]の「友だちから嫌われそうで怖い」「自分から行動するのが恥ずかしい」「自分にはできない」といった感情から、様々な場面において勇気をもって行動することの難しさを感じていることがわかる。また、[表3]から、「自分だけでなく、相手や社会全体が気持ちよく過ごせる」という意義を感じている子どもが多いことがわかる。しかし、[表4]から、「相手のことを考える」といった自分だけでなく相手のこともよく考えて、判断したことを行動に移そうとする気持ちや考えをもっている子どもは少ない。

これらの実態から、「相手のためになることを考える」「自分だけでなく相手のこともよく考えて、判断したことを行動に移す」などの心構えや、「自他共に気持ちよく生活できる」「安心して過ごせる社会につながる」などのよさを関係付けて考えさせたり、自分のことだけを考えて行動することが互いに望ましい結果につながらないことを関係付けて考えさせたりして、正しいと判断したことは、勇気をもって行うこととは、どのようなことかを深く追究させる必要がある。

一方、道徳の時間において、本学級の子どもたちは、問題意識をもって学習に取り組む姿は見られるが、主人公の心情やその背景と自らの生活場面を関係付けて考え、互いの考えを比較したり関係付けたりしながら、道徳的価値に対する見方・考え方・感じ方を十分に深め、広げるまでに至っていない。そこで、より切実感のある問題意識をもたせ、それを追究する中で、多様な見方・考え方・感じ方に触れさせていく。そして、学習を通して、自分自身の見方等がどのように変わったか、その理由は何かなどを明確にさせてまとめていく必要がある。

(4) 指導上の留意点

本主題の指導を展開するにあたっては、正しいと判断したことは、勇気をもって行うことの生き方はなぜ大切にされているか、どんなよさがあるのかを友だちと協力しながら、主体的に追究することを通して、理解し、実感を深める中で、子どもたちがこれまでの生活の中で体験して感じてきた道徳的価値にかかわる意識が、これからの生き方へと連続し、発展していくようにしたい。

ア 切実な問題意識をもたせるために、子どもたち自身が捉えている勇気とはどんなことか、実際の生活場面で勇気をもって行動できているかを考えさせ、疑問や矛盾から子ども一人一人が考えていきたい問題を設定させるようにする。

イ 主人公の心情や心情の変化に共感させたり、ここでの見方等について十分に深めたり広げたりさせるために、主人公が友だちから危険な遊びの誘いを受けた場面に焦点化し、**小さい声で誘いを断った主人公の行動では、結果的に友だちが大けがをしてしまうことにつながってしまったことと、よく考えて正しいと判断したことを行動に移すことを関係付けて考えさせるために、主人公が友だちにも危険な遊びをやめさせる場面を仮定して役割演技を設定し、自分だけでなく相手のこともよく考えて、判断したことを行動に移すことが、お互いにとって望ましい結果につながるといったよさに気付かせる。**

ウ この内容にかかわる自己の生き方についての考えを深め、これからの生活とのつながりを感じ、これからの生かしていこうとする意欲を高めさせるために、自分の生き方を振り返らせる。その際、資料中の主人公の考えや話し合い中の友だちの考えなど、自分の見方等が広がったり深まったりした理由を明確にさせる。さらに、自分がこれからの生活の中で大切にしたい気持ちや考えは何か、それは、どのような生活の場面で生かせそうかを視点に考えさせ、見方等の変容やその要因を意識させるようにする。

3 本 時

(1) ねらい

- ア 正しいと判断したことは、勇気をもって行うことにかかわる自分自身の生き方を見つめ、勇気をもって正しい行動をしていこうとする気持ちを高めることができる。
- イ 正しいと判断したことは、勇気をもって行うことにかかわる見方・考え方・感じ方を自らの体験場面での内面と関係付けて類推しながら考え、表現することができる。
- ウ 恐怖心や自己中心的な考えなどの心の弱さから、勇気をもって正しい行動ができなかったことに気付くとともに、正しいと判断したことは、勇気をもって行うことの大切さを理解することができる。

(2) 本時の展開に当たって

自分だけでなく相手のことも考えて、相手にとっても正しいと判断したことを行うことが大切であり、そのことによってお互いにとって望ましい結果につながることを実感させるために、危険な遊びの誘いを断った主人公の行動の背景にある心情と、友だちが大けがをしてしまったと聞いたときの心情を関係付けて追究させる。

(3) 実 際

過程	主 な 学 習 活 動	時間	教師の具体的な働きかけ
気付く	1 考えていきたい問題に気付く。 すっきりした。←→ 恥ずかしい。こわいな。 ゆう気をもって行動するには、どんな気持ちが必要だろう。	(分) 7	○ 切実な問題意識をもたせるために、勇気について自分が捉えていることを挙げさせる。そして、実際の生活で勇気ある行動ができたときとできなかったときの心情を発表させ、それらの矛盾から、問題意識をもたせる。
さぐる	2 資料「あと、ひと言」を読み、考えていきたい問題について話し合う。 (1) 主人公の心情、心情の変化について感想をもち、考えていきたい場面を選択する。 (2) 主人公の心の弱さや、友だちが大けがをしたと聞いたときの主人公の心情について話し合う。 【心の弱さ】 友だちに嫌われそうが怖い。(恐怖心) ↓ 自分がよければいい。(自己中心的な考え) ↓ 自分は止めることはできない。(あきらめ) 【危険な遊びに誘われたときの心情】 ・よくないことは、できない。 ・けがをしたら、大変だ。 ・友だちも止めよう。 ・家の人との約束を守ろう。 【心構え】 すっきりする→自信がもてる→相手も助かる→仲良くなれる→みんなが気持ちよく生活できる など	14	○ 設定した学習問題と主人公の心情とを関係付けて共感的に読み取らせるために、資料を一読する前に、主人公が危険な遊びの誘いを受けている場面を提示し、「こんな場面に会ったらどうするか。」と問う。 ○ 塀の上を歩こうと友だちから誘われ、やってみようという気持ちとよくないことはできないという気持ちで葛藤している主人公の気持ちに共感させるために、「ぼくは今、どんな気持ちだろう。」「自分だったら、どうするだろう。」「と問い、勇気をもって正しい行動ができなかったときの経験を想起させ、自らの体験場面での内面と関係付けて類推しながら考えさせる。
見つける	【意義】 すっきりする→自信がもてる→相手も助かる→仲良くなれる→みんなが気持ちよく生活できる など 【心構え】 相手のためになることを考える。 自分や相手にとってよいと判断したことを行動に移す。 自分の弱さや誘惑に負けない。 など	14	⑨「危険な遊びの誘いを断ったぼくは、勇気があるのだろうか。」 ○ 「相手のためになることを考える」「自分や相手にとってよいと判断したことを行動に移す」などが、正しいと判断したことは、勇気をもって行うことにつながることを捉えさせるために、「友だちがけがをしないためには、どうすればよかったのだろう。」と問う。
深める	(2) 主人公の生き方を振り返り、自分と友だちの考えで感じたことや考えたことについて話し合う。 相手のためになることをよく考えて行動できると、相手も助かるんだ。	8	○ ここでの意義・心構えについて追究させるために、主人公が友だちにも危険な遊びをやめさせる場面を仮定した役割演技を通して、相手のためになることを考えることと、そのことによって、みんなが気持ちよく生活できることとを関係付けて考えさせる。
見通す	3 学習したことを振り返り、自分の考えていきたい問題に対して、自分なりの考えをまとめる。 勇気をもって行動するには、相手のこともよく考えたり、自分の心の弱さに負けたりしないことが大切だな。	2	○ 学んだことを自分の生活とのかかわりの中で考えさせるようにするために、自分なりの考えを端的にまとめさせる。その際、今後の生活の中で大切にしたい気持ちや考え、生活の中で生かせそうな場面を考えさせ、見方等の変容やその要因を意識させるようにする。
	4 正しいと判断したことは、勇気をもって行うことにかかわることについて教師の説話を聞く。	2	○ 学習したことの価値付けとこれからの生き方について期待感をもたせるために、説話を行う。